

# 令和4年度第2回庄原市特別支援教育研修会

令和4年6月10日（金） 庄原市ふれあいセンター

特別支援教育の校内支援体制の中核を担う特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担任の資質の向上を図るとともに、特別な支援を必要とする児童生徒のアセスメントを視点に据えた授業改善を推進することを目的に、研修会を行いました。

**【講話】「特別な支援を要する児童生徒のアセスメントについて」～要因に沿った支援を！～**

特別支援教育士スーパーバイザー 山田 充



## 【講話から】

- ・色々なテクニックを覚えて子供に使ってみるのではない。支援の必要な子供達への支援ではアセスメントを必ずする必要がある。
- ・まず、子供の状態や特徴を明らかにし、子供の状態の因果関係を明らかにする。明らかになった困難の因果関係から、対応を考えていくことが大切である。特別支援教育は、科学的手法で支援方法を考えていく。
- ・事例検討は2段階で行っていく。
  - ①子供の特性を考え、子供の困難な課題、子供の指導すべき課題を列挙する。この両者の関連を線で結び因果関係を考える。
  - ②特性に基づいた具体的な支援方法を考える。

## 【参加者の振り返りより】

- うなずきながら（納得）しながら話を聞かせていただくことが多かった。特に、事例を聞いていると、本学級の児童に当てはまると感じるものがある、**「枠組を意識させる」**というお話は大変参考になった。
- 問題行動を起こす児童について、その原因がどこにあるのか、まったく異なる場面でのストレスが原因で意欲低下を起こす場合があり、その障害を取り除くことが大切であると感じた。
- 事例検討を2段階で進めるという考え方が大変参考になった。ぜひ研修に取り入れたい。
- 本校の職員を巻き込んでアセスメントを行っていく必要があると感じた。所属校における**「気になる子」**の背景を分析する引き出しを得られた時間となった。
- 4月当初に全教職員が特別支援学級担当者という自覚をもつために校内研修をする必要があると気付いた。全員が児童の状況を知り、課題を知り、その上で具体的な支援方法を考え、個別の指導を進めなければいけないと思った。
- アセスメントをしっかりとしてから、指導を検討することが大切だと気付くことができた。引き出しを増やしていくことも大切だと思うが、間違えた指導で**「また失敗した」**と生徒に思わせないように、しっかりとアセスメントをしていこうと思った。
- 様々な場面において、まず**「なぜだろう」**と考えることを習慣にしたい。特別支援教育支援員としてアセスメントをして、担任にも相談しつつ、クラスの子供の成功体験の積み重ねに尽力したい。
- 保育所での保育と共通した姿が多くあった。保育の中での支援をしていることと学校教育で共通すること、連携の中で共通した支援として取り組めることを今後も学びたい。